

速報！ <令和8年度入試 国公立大学 合格おめでとう！> 77期生

大学入学共通テスト**有**総合型選抜&学校推薦型選抜の合格大学を記載しました。

学科/選考/コースについても、記載しましたので、自身の進路選択の参考としてください。

令和8年2月12日現在

国立大学

大 学	入試	学部／学群／学類	学科／選考／コース
名古屋大学	推薦	法	法
名古屋大学	推薦	医	保健・検査技術
広島大学	総合型	工	応用生物系応用化学科
岐阜大学	推薦	教育	特別支援
岐阜大学	推薦	教育	美術
岐阜大学	推薦	教育	美術
岐阜大学	推薦	地域科	地域
岐阜大学	推薦	工	化学・生命工・物質科学
岐阜大学	推薦	工	機械工・機械
岐阜大学	推薦	工	社会基盤工
静岡大学	推薦	理	数
静岡大学	推薦	人文社会	経済
愛知教育大学	推薦	教育	高校地歴・公民
愛知教育大学	推薦	教育	養護教育
三重大学	推薦	工	総合工
三重大学	推薦	生物資源	生物資源
和歌山大学	推薦	観光	観光

公立大学

大 学	入試	学部／学群／学類	学科／選考／コース
岐阜県立看護大学	推薦	看護	看護
岐阜県立看護大学	推薦	看護	看護
岐阜県立看護大学	推薦	看護	看護
岐阜県立看護大学	推薦	看護	看護
名古屋市立大学	推薦	医	保健医療・理学療法
名古屋市立大学	推薦	芸術工	芸術工
名古屋市立大学	推薦	データサイエンス	データサイエンス
滋賀県立大学	推薦	人間文化	生活栄養

大学入学共通テスト**有**学校推薦型および総合型選抜で、**11**名合格しました。すでに、年内合格発表の学校推薦型および総合型選抜において、**11**名合格しており、国公立大学**22**名の合格となります。

以下は、年内発表の総合型&学校推薦型選抜の合格大学です。（詳細は12月号掲載）

岐阜大学 1名 名古屋工業大学 1名 新潟大学 1名 信州大学 1名

岐阜県立看護大学 1名 都留文科大学 1名 長野大学 2名 京都府立大学 1名

芸術文化観光専門職大学 1名 高知工科大学 1名

＜国公立大学合格者数の推移＞（現役のみ）

3年前から今年度までの本校の国公立大学合格者推移状況を表にまとめました。大学入学共通テスト(大学入試センター試験)なし学校推薦型および総合型選抜、大学入学共通テスト(大学入試センター試験)有学校推薦型および総合型選抜、合格者の総合計です。

国公立大学の合格者数	大学入学共通テストなし 学校推薦・総合型	大学入学共通テスト有 学校推薦・総合型	総 合 計
今年度	11	21	?
昨年度	17	19	126名
一昨年度	14	22	131名
三年前	17	26	125名

☆ 1,2年生の皆さんへ 総合型選抜・学校推薦型選抜を甘く見てはいけない！

ここ数年、各大学が総合型・学校推薦型の選抜を充実させています。そのため、志望校に複数回挑戦できるチャンスが増える、という理由で出願を希望する受験生や保護者の方が増えています。

特に本校は、部活動が盛んで、英語の外部検定試験の資格取得者が多いため、学校推薦型や総合型選抜において、よい成果を得ることができる可能性が高いと言われているため、その声は大きいように思います。確かに、合格者数自体は他校と比較しても多いですが、かといって簡単な入試ではないことをこの場で伝えたいと思います。

結論から言うと、かつてより難易度が上がっている印象です。岐阜大学の推薦入学合格者数自体も減少傾向で、簡単ではなくなっています。私大入試に至っては、公募制の併願推薦はここ2年は非常に厳しい結果になっているといえます。

その理由として、推薦入試は、かつてほど部活動の経験・資格がある、だけでは通用しなくなっていることにあります。かわって、総合的な探究の時間などで、「自分で課題を見つけ、解決に向けて探究したという学びの経験」が大きな比重を占めています。

昨今は、課題解決のための取り組みを熱心に行う高校が多くなっています。中には、普通科でありながら商品開発に携わるなど、大学の学びとリンクした活動を行っているところもあり、推薦や総合型の入試においてはこうした経験や実績に加え、**大学で何をしたいか、どんな力をつけたいかを自分の言葉で語ることができる高校生が求められおり**、こうした経験のある高校生が積極的に参加しつつあることが難易度を上げていることもその理由といえると考えています。

逆に言えば、部活動の実績や有資格に加えて、自分の過去や現在、さらには未来についてのビジョンを語る武器がある生徒は、こうした入試に向いているといえます。

いずれにしても、将来の職業を見据えた学部学科の進路研究を行い、志望大学を決めることが大切です。その次に、志望大学の入試方法についての情報を収集するとよいでしょう。

総合型選抜・学校推薦型選抜入試は、確かに機会が増える、という点では間違いはないところですが、それだけで受験を決めることはお勧めできません。現在の自分の学力、持っている武器、受験スケジュールなどあらゆることを俯瞰して、慎重に志望校入学のための一機会として選択してください。

例えば、年内の総合型・学校推薦型の入試は10月～11月が準備期間です。その時期は来るべき一般入試の学力試験に向けた記述力をつける時期だといわれています。両方の入試をにらんで準備をする「覚悟」が必要にもなります。